

**「心理学研究」・“Japanese Psychological Research” に投稿された論文の
査読者へのガイドライン**

日本心理学会機関誌等編集委員会

日本心理学会の論文査読は、心理学の発展を目指す皆様は無償でお願いするものです。以下の点にご留意の上、迅速かつ適切な査読をお願いします。

1. 本論文の査読を期日までに実施できるかどうか、電子投稿システムの所定の画面より事務局にご連絡ください。電子投稿システムをお使いにならずに査読される場合には、事務局まで以下の方法でご連絡ください。

公益社団法人日本心理学会 事務局編集部< jpaednew@psych.or.jp>

2. 迅速な査読をお願いします。
 - ・査読は原著論文，原著論文 [方法・開発]，展望論文，Original，Brief Report，Review は 4 週間，研究報告は 3 週間以内をお願いします。
 - ・査読の長期化は，投稿者とりわけ大学院生や若い研究者にとって，著しく不利な状況となりますので，十分にご配慮ください。
 - ・期限内に査読することが無理となる事情が発生しましたら，直ちに電子投稿システムから事務局にご連絡ください。1 に記した他の方法をお使いになられても結構です。
3. 査読にあたり次の点にご留意ください。
 - ・著者名は開示されません。
 - ・査読者名の開示をご希望の場合には，著者宛の査読コメントにご自身の氏名を明記してください。
 - ・採否をできるだけ明確にしてください。とりわけ，「C」や「D」の評価は，原則として 2 回までとしていますので，3 回目には採否を明確にする方向で査読をお願いします。
 - ・査読は，研究者として対等である立場の者が，投稿論文においては査読する側に回るという事実にご留意いただき，コメントにあたり，できるだけ丁寧な表現をお使いください。「査読結果（著者宛のコメント）」は基本的に，「ですます調」で書くようにお願いします。
 - ・「査読結果（著者宛のコメント）」は，原則的にそのまま著者に返されますが，編集委員会により，調整が行われる場合があることをご了承ください。
 - ・最終的な決定は編集委員会にお任せいただくことになります。したがって，以下に解説する「A—E」の評価カテゴリーは「評価理由（編集委員会宛のコメント）」に記載し，「査読結果（著者宛のコメント）」には書かないでください。
4. 「心理学研究」の原著論文 (Original Article)，原著論文 [方法・開発] (Methodological Advancement)，研究報告 (Research Report)，展望論文 (Review)，“Japanese Psychological Research” の Original Article，Brief Report，Review の区別にご留意ください。

以下のような違いがありますので，この違いを念頭におき，査読してください。

「心理学研究」

原著論文：原則として，問題提起と実験，調査，事例などに基づく研究成果，理論的考察と明確な結論をそなえた研究。

原著論文 [方法・開発]：新たな実験装置や解析プログラムの開発，新たな心理測定尺度の作成やデータベースの構築など，研究の遂行に有用な新たな方法，技術およびデータに関する報告。

研究報告：すでに公刊された研究成果に対する追加，吟味，新事実の発見，興味ある観察，少数の事例についての報告，速報性を重視した報告，萌芽的発想に立つ報告。なお，「研究報告」の速報性を担保するために，査読期間は短縮して設定される。

展望論文：心理学の最近の重要テーマについて，研究状況，主要成果，問題点等を解説し，研究の意義と今後の課題を論じる。

初回投稿時に，事務局が刷り上がり時のページ数を見積もる。規定のページ数制限は，以下を適用する。ただし，それぞれ1ページの超過を認める。

- (1) 原著論文：10 ページ
- (2) 原著論文 [方法・開発]：10 ページ
- (3) 研究報告：6 ページ
- (4) 展望論文：20 ページ

なお，このページ数の制限は，改稿時には適用しない。

“Japanese Psychological Research”

Original Article：原則として，問題提起と実験，調査，事例などに基づく研究成果，理論的考察と明確な結論をそなえた研究。新たな実験装置や解析プログラムの開発，新たな心理測定尺度の作成やデータベースの構築など，研究の遂行に有用な新たな方法，技術およびデータに関する報告も含む。最大 10,000 語。

Brief Report：すでに公刊された研究成果に対する追加，吟味，新事実の発見，興味ある観察，少数の事例についての報告，速報性を重視した報告，萌芽的発想に立つ報告。最大 5,000 語。

Review：心理学の最近の重要テーマについて，研究状況，主要成果，問題点等を解説し，研究の意義と今後の課題を論じる。編集委員会から執筆依頼を行う “Invited Review” を含む。最大 20,000 語。

これらの文字数の制限には，引用文献，表，図を含めない。また，この制限は初回投稿時のみ適用され，著者は投稿時にこれらの文字数について申告する。

どの種別の投稿論文であるかは，著者の選択によります。ただし，著者の選択が不適切と判断される場合には，その旨を「評価理由（編集委員会宛のコメント）」に記載することも可能です。「査読結果（著者宛のコメント）」には変更についての意見は記載しないでください。

5. 以下に査読報告（「査読結果（著者宛のコメント）」）の書き方のガイドラインを記します。ガイドラインの表現は例示ですので，適宜，変更や調整を加えて用いてください。

どの評価結果の場合にも，原則として最初に論文の概要を簡単にまとめてください。

例：「本論文は，——について，——の観点から実験／調査を行ったものです。その結果，——などが見出されました。得られた結果から，——という考察がなされました。」など。

「A」評価（このままで掲載可）の場合（Accept）

- ・「このままで掲載可」の判断でも，できるだけコメントをお書きください。
- ・論文の長所について記述し，また必要があれば短所についても記述してください。

例：「本論文で得られた知見は，——の観点から有意義であり，論文の記述もわかりや

すく、適切になされていると思います。——の点についての検討を行うこともさらなる課題として考えられますが、今後の研究に期待したいと思います。」など。

「B」評価(多少修正の必要あり, 修正後の判断は編集委員会に委任)の場合(Minor Revision)

- ・論文の長所について記述し, 修正すべき点について明確に述べてください。必要があれば短所についても記述してください。

例:「本論文で得られた知見は, ——の観点から有意義であります。しかし, 論文の記述について問題のある箇所がいくつかあり, それらの修正が適切になされる必要があります。」など。

- ・修正の必要がある点を明確に記述してください。

例:「以下に示すポイントについて修正をご検討ください。」

「——の用語を——に変更する必要があると考えられます。」

「——の研究を引用する必要があると考えます。」

「——の点について, より詳細に記述する必要があります。」

「——の英文表記が適切ではありません。」

「誤字脱字, 図の番号違いがあります。修正してください。」など。

「C」評価(別記の点について大幅に書き直した後, 再査読)の場合(Major Revision)

- ・論文の長所や短所について記述し, 「大幅に修正の後, 再査読」と評価した理由を述べてください。

例:「本論文で得られた知見に基づき, ——であると考察されておりますが, 以下に指摘するとおり, その妥当性や, 研究の新規性について明確な記述がなされていません。したがって現在の内容や構成では心理学研究の原著論文, 原著論文[方法・開発], 研究報告, 展望論文, または“Japanese Psychological Research”のOriginal Article, Brief Report, Reviewとして大きな問題があります。それらの点に関する大幅な修正や改善をめざした改稿が必要です。」など。

- ・修正の必要がある点や問題点を明確に記述してください。

例:「本論文と同様な問題は, 以下に示す——の論文でも取り上げられておりますが, それらの先行研究と本論文の関係や相違点を明確にしてください。」

例:「以下の用語や概念の定義が曖昧で, ——の点において混乱が生じています。」

例:「——ページで——について論じていますが, 論理に飛躍があり, よく理解できません。この点についてより明確な説明をお願いします。」

例:「本論文で示している結論を得るためには, 以下に示す検討も必要であると考えます。信頼性を高めるために, ——についての記述や考察を加筆してください。」など。

「D」評価(このままでは評価不能, 照会後, 再査読)の場合

(この評価は, “Japanese Psychological Research”にはございません。)

- ・現在の内容では論文の評価ができない点や理由について, 著者に明確に伝わるように示してください。

例:「本論文で得られた知見に基づき, ——であると考察されておりますが, 以下に指摘するとおり, 問題設定や, 実験・調査の手法, 結果の整理方法や解釈の仕方などに不明な点や疑問点があり, 現在の論文の内容では, 査読を適切に行うことはできません。それらの不明な点や疑問点に関して, 説明や大幅な改稿を行ってください。」など。

- ・照会の必要がある点や問題点を具体的に明確に記述してください。

例:「本論文は——を取り上げておりますが, その問題設定に関しては, ——の観点から——などの難点があると思われます。」

例：「実験・調査の手続きなどが明確に記載されていないために、得られたデータが信頼できるものか判断できません。——で用いた刺激の属性や手続きの詳細について記してください。」

例：「条件設定に不十分な点があると思われます。——などの条件についても実験・調査を行わないと明確な結論が導けないと思います。既にデータがある場合には記載し、あるいは短期間で収集可能であれば、データを追加してください。」

例：「結果のところで、——による統計分析を行っておりますが、——の理由で妥当ではないと考えます。統計分析を別の手法でやり直す必要があります。」

例：「本論文で示している結論は、本論文に記載されたデータと——の点で矛盾があるように思えます。論拠を整理し、考察を妥当なものに修正してください。」

例：「理解不能な文章や表現が多く見られます。論文の推敲を十分に行ってください。」など。

- ・ 所定の改稿期間（心理学研究は3ヵ月、Japanese Psychological Researchは6ヵ月）に、修正が難しいような条件（追加実験・調査・解析など）をつけないでください。そのようなことが必須の場合には、「E」評価としてください。
- ・ ご自分の専門以外の研究内容が書かれているために、不明の点が多い場合には、その旨を「評価理由（編集委員会宛のコメント）」に記載してください。

「E」評価（掲載不适当）の場合（Reject）

- ・ 論文が掲載される水準に達していない理由を、できるだけ具体的に、納得できるように記述してください。また、欠点のみをリストするだけでなく、評価できる点があればできるだけ記載するよう心がけてください。

例：「本研究で何を目標しておられるかはよくわかりますが、本論文は、以下に示す理由から、心理学研究・“Japanese Psychological Research”へ投稿する内容とは違うように思われます。」

例：「本論文で、取り上げられているテーマは重要であると思います。しかしほぼ同様の内容がすでに先行研究（具体的に例示）で報告されており、新たな知見を本論文に見出すことはできませんでした。」

例：「研究テーマは興味深いのですが、問題設定と実験・調査の方法、結果と考察の間などに、——などの大きな乖離が見られ、論文としての一貫性、バランスに大きな問題があります。」

例：「本研究で用いられた実験・調査手法や分析方法が、——の理由で適切ではありませんので、得られた結果の信頼性が保証されません。」

例：「本論文では、得られたデータから——であると結論されています。しかし、今回の実験・調査で収集されたデータのみからその結論を導くのは、——などの点で不十分であると思料します。——の条件設定や、——の点に関するデータの積み重ねが必要です。」

例：「本論文が目指す方向性は大まかには理解できるものの、形式が日本心理学会で定めたものと大きく異なっており、また難解で意味が多様に取りれる記述や、曖昧な表現が多く、論旨を正確に抽出することができませんでした。」など。

- ・ 査読は研究指導ではありませんので、論文のあり方や研究そのものを否定する表現は避けてください。

不适当な例：「本研究は、心理学的に意味のない、枝葉末節なテーマを取り上げており、科学的研究として遂行する価値を何ら見出せない。」など。

- ・ なお、論文が掲載される水準に達していない点については、その理由を明確に述べればよいので、不必要に論文の欠点を仔細に指摘することはひかえてください。

6. 日本人の関連する先行研究を、引用しているかどうかご確認ください。

日本人による関連する先行研究があるにもかかわらず、それが引用されていないということは、大きな問題です。もしそういうことがあれば、ぜひ著者にご指摘ください。

「心理学研究」・“Japanese Psychological Research”のインパクトファクター向上のためにもお願いします。

7. キーワード設定についてご確認ください。
論文の内容を適切に表すキーワードを設定することは重要ですが、一般性のない、著者しか使わないようなキーワードしか設定されていないと、PsycINFOをはじめとしたデータベースからその論文が検索される確率は落ちてきます。他の研究者がキーワード検索して たどり着けない論文は、引用もされません。「検索されやすいキーワード」という視点からも、キーワードが適切であるかどうかを、ご確認ください。
8. 査読の結果は、電子投稿システムより送信してください。電子投稿システムをお使いにならない場合には、1 に記した他の方法をお使いになられても結構です。

ご協力のほど宜しくお願いいたします。